

(様式2)

議員行政視察報告書

議員名	えびな 安信
視察地	愛知県
視察年月日	令和6年1月16日
視察内容（目的・具体的内容・成果等）	

愛知県新体育館建設について	
<p>旭川市の総合体育館は年間を通して多くの全国・全道規模の大会が開催されており、プロバレーボールV1リーグのヴォレアス北海道のホーム体育館となる等、北北海道地区のスポーツの拠点となっているが、完成してから45年が経とうとしており、老朽化が進行している。また、V1リーグの施設基準を満たしていないことや、施設機能の維持が年々難しくなっているため、花咲スポーツ公園再整備基本構想の中で建て替えが検討されている。持続可能な運営に向けて、先進的な事業方式である「BTコンセッション方式」を導入している愛知県新体育館を見ることにより、多角的な視点で捉えることとする。</p> <p>愛知県新体育館は現在建設中であり、2025年開業のため愛知県議会にて座学で整備・運営等事業について担当者より説明を受けた。愛知県も施設老朽化と、規模・機能をスポーツの国際大会水準を満たすため整備を進めている。PFI手法の「BTコンセッション方式」は事業者が自らの提案をもとに設計・建設を行ったあと、新体育館の所有権を移転し、維持管理や運営も公共施設等運営権を設定した上で事業者が実施。設計・建設費（前田建設工業株）とその後30年の維持管理・運営費（株NTTドコモ）を加えた額から利用料金収入等を差し引いた額であるサービス購入料の199億円で実質400億円規模の体育館を建設できるメリットがある。</p> <p>事業方式が素晴らしく大変参考になったが、人口規模が違うため運営権対価を事業者が高く設定するかが課題となる。一方、維持管理・運営を民間企業が行うことにより幅広いサービスを行える可能性があるため、積極的に検討すべきと考える。</p>	

(様式2)

議員行政視察報告書

議員名	えびな 安信
視察地	三重県伊勢市
視察年月日	令和6年1月17日
視察内容（目的・具体的内容・成果等）	

バリアフリー観光について	
<p>旭川市の観光はコロナ禍で一時期落ち込んだものの旭川初のLCCジェットスター成田便をはじめとする航空路線の充実により、外国人観光客が増加しており、全国的に知られる旭山動物園や雪質が良いスキー場などに、国内外から年間500万人を超える観光客が訪れている。人口規模は12万人程と本市の3分の1でありながら、伊勢神宮の内宮と外宮を合わせ年間約1千万人が訪れる伊勢市が、「バリアフリー観光」を通してどう地理的なハードルを乗り越えて受入環境を整備しているかを見ることにより、本市の観光産業政策に生かしていく。</p> <p>伊勢市は古くから「お伊勢さん」「日本人の心のふるさと」と呼び親しまれてきた伊勢神宮を擁し、神宮御鎮座のまちとして栄えてきた。2025年度においては伊勢市観光振興基本計画の中で「多様な主体を受け入れ、常若の精神とにぎわいにあふれるまち」をありたい姿として『パーソナルバリアフリー基準』を定めている。これは、旅行者一人ひとりの状況に合わせて情報提供や旅行アドバイスを行う相談システムであり、障がい者の数だけバリアの数はあるという考えに基づき、バリアフリー観光マップ作成においては、肢体や視覚障がい者、市内学生が実際に歩き、取り入れるべき情報を調査・反映させている。</p> <p>本市の観光指針でも「新たな旅行スタイルへの対応」の中で安心・安全な観光地づくりの推進が定められているが、超高齢化社会が進む中、バリアフリー観光をどのように位置づけていくか、具体的に検討していくべきと考える。</p>	

(様式2)

議員行政視察報告書

議員名	えびな 安信
視察地	三重県津市
視察年月日	令和6年1月18日
視察内容（目的・具体的内容・成果等）	
サオリーナ建設について	
<p>旭川市の総合体育館は完成してから45年が経とうとしており、老朽化が進行しているため、花咲スポーツ公園再整備基本構想の中で建て替えが検討されている。持続可能な運営に向けて、「津市スポーツ施設整備基本構想」のもと建設され、津市スポーツ・メッセネットワーク（代表企業：ミズノ株式会社）が、維持管理業務及び運営業務を行う津市産業・スポーツセンターのサオリーナを視察する。</p> <p>「津市産業・スポーツセンター」は、屋内スポーツ施設「サオリーナ」「三重武道館」と既存施設のコンベンション施設「メッセウイング・みえ」で構成されている。屋内スポーツ施設の名称は、三重県津市出身の女子レスリング選手兼日本女子代表コーチの吉田沙保里氏にちなみ、「サオリーナ」と命名されており、スポーツ教室などのスポーツを「する」、トップレベルの競技大会やプロスポーツの試合を「みる」、またミズノのノウハウを生かしたスポーツ講習会等を開催し市民の健康を「支える」施設運営を行っている。利用実績はコロナ禍前には屋内プール・トレーニングルームともにそれぞれ約9万人で推移しており、ミズノのノウハウを生かしたダンススクールやバドミントンスクールをはじめとする各種取組みで利用者を伸ばしている。トレーニングルームやプールの利用は高校生以上410円。スクールの受講料は1回あたり1,300円程度。</p> <p>利用料には反映されるが、スポーツ企業のノウハウを生かし、市民の健康づくりに資する施設づくりを行っていると感じた。設備の充実度を見ると市民の満足度が高い理由もわかる。市民に利用され、健康に繋がる体育館づくりの必要性を感じた。</p>	